近鉄伊賀線創業89周年記念

桑町跨線橋をくぐる

近鉄伊賀線について、

ちょっと考えてみませんか？

はじめに・・・

2005 年 8 月 8 日、近鉄伊賀線は創業８９周年を迎えます。

伊賀線は、高齢者や通学者など地域住民と伊賀地域を訪れる観光客の双方にとって重要な移動手段であり、長期的な地域振興になくてはならない存在です。少子化や自動車社会の進展など環境の変化に伴い、利用者減少という厳しい現実に直面してはいますが、伊賀線を失うことはたやすくとも、失った後に再現することはできません。

そこで、伊賀線の持つ利便性や可能性を再発見し、長期的な活性化を図るため、「伊賀線協働塾」を開催し、取り組みを進めることにしました。協働塾は、ＮＰＯや行政が単独ではなし得ない新たな発想の事業展開などを協議する場として、2006 年 2 月末まで設置します。

この冊子は、来年の９０周年を目前に、皆様にも一緒にこの問題を考えていただけたら、との思いを込めて作成しました。お一人でも多くの皆様にご覧いただくことを願っています。

近鉄伊賀線の歴史を知ろう!!

伊賀線が開通したのは、大正５（１９１６）年8月8日。もう90年近くも伊賀の人々とともに働き続けています。

三重県で初めてできた駅は柘植駅。草津～柘植間が開通したためです。当時、蒸気機関車の疾走する音は文明開化の足音そのものだったことでしょう。

次に関西鉄道（関西本線の前身）が大阪まで開通しました。そこで「ぜひ上野町にも鉄道を引きたい！」と言う青年団体の声が上がり、紆余曲折の末に伊賀軌道が伊賀上野駅～上野町駅（現在の近鉄上野市駅）を開通させたのがこの日です（当時の乗車賃金は、同区間３．９キロが六銭でした）。

その前には、伊賀上野駅から大内、古山を通り、名張につなげる動きもあり、伊賀上野駅から大内まではほぼ竣工させて

桑町跨線橋から

いました。その名残として、つい先頃まで木興町にレンガ造りの橋脚が残されていました。

おなじみの上野市駅舎は当初からの建物で、とてもモダンで立派です。ドイツ式建築とかで、上野町へ新しい風を吹き込みたい伊賀人の意気込みが感じられます。

また大正 11 年 7 月、上野町～名張（後の西名張）間が着工から 3 年足らずで開通したこと、その後たった 4 年で全線電化させてしまったことも、土木工事に使用する機械が何一つない当時のことを考えると、驚きの伊賀人パワーを感じずにはいられません。

昭和の初めには、1 年半程の間ではありますが、ディーゼル動車が走っており、これは日本最初といわれています。その他にも、昭和 3 年 11 月の昭和天皇即位御大典奉祝で、電飾された華やかな花電車が繰り出されたことや、昭和 19 年 6 月 1 日、近畿日本鉄道伊賀線となったこと、また戦時

中の昭和 20 年 8 月 8 日には、走行中の列車が米軍機に銃撃されて死傷者が出たこと、さらには、たび重なる水害など・・・。今ではのどかなイメージの伊賀線も様々なできごとを経て活躍してきましたが、昭和 39 年 9 月 30 日、伊賀神戸～西名張間は廃線となりました。

その後、伊賀地域は、南部はベッドタウンとなり、北部は名阪国道の開通で工業を中心とした地域の様相を強めました。

服部川を渡る忍者電車

近鉄伊賀線を元気にするための
市民提案アイデア集

★伊賀線は、伊賀地域を南北に縦貫する基幹公共交通です。毎日の地域住民の移動と観光の両面で、地域振興に大切な役割を果たしています。いま、その将来のあり方について議論されています。

伊賀線協働塾では、伊賀線の今後の一層の活性化を願って、市民提案のアイデアをまとめてみました。「地域内での流動」と、「地域外からの流入」をますます促進して、伊賀線を未来へと発展させてゆきましょう。

皆様も、ユニークなアイデアがございましたら、事務局までお寄せください。

１．「地域内での流動」を
ますます促進しましょう

★線内フリー切符の発売

一枚の切符で、一日何度でも乗り放題の「フリー切符」は、遊びゴコロいっぱいに、鉄道を気軽に利用するきっかけ作りに有効です。普段はあまり鉄道を利用していない方にも、何度でも乗り降りできるお値打ち感が呼び水になることも。

[redacted]→近くでは、滋賀県の近江鉄道で発売されている実例があります。価格は、路線の往復運賃と同額程度に設定される場合が多いです。

★お買い物客への乗車券割引や進呈

駅周辺の商店や大型商業施設などで、お買い物をされた方を対象に、乗車券の割引や進呈などを行えば、日常での鉄道利用が増える可能性があります。例えば、2000 円の買い物で伊賀線の帰りの分の切符進呈、などといった感じです。

[redacted]→実例としては、京都市内のデパートが、鉄道利用者に乗車券をプレゼントしたことがあります。

★「鍵屋辻駅」の復活

もと、鍵屋辻駅があった付近で、現在賑わっている深夜営業の書店を始め集積する商業施設や医療機関と連携して、鍵屋辻駅を復活できれば、双方にとって活性化のメリットが考えられます。

★駅舎を活用したフリマの開催

おなじみの各地で開催されているフリマ、天候に左右されたり主催者側も悩むことがあります。その点、沿線の各駅で開催すれば、天候の心配はなし。また、複数同時に開催することで、フリマをめぐる小さな旅も楽しめます。駅ごとに地域との関わりでテーマを設けると、全国に先駆けて、面白いフリマになること間違いなし！

★観光施設とタイアップした乗車券の企画

「家族一緒に出かけて、旅先ではおいしくビールも楽しみたい」、そんな夢をかなえるのは、やはり鉄道とバスです。地域の観光施設までの電車やバス＋入場券をセットにして発売すれば、地域全体の活性化に寄与できます。具体例としては、モクモクファームへの乗車券などはいかが？

★電車をライヴやナイトシアターの会場に

非日常的で、しかもあまり騒音を気にしなくても良い移動空間ということで、これまでにない盛り上がりを生むことができるかも。

★電車を披露宴会場に活用

人と人、町と町を結ぶ電車ですから、そこを披露宴会場に、というアイデアも生まれます。

→各地の鉄道でそうした実例があります。

２．「地域外からの流入」を
ますます促進しましょう

■忍者教室列車

車体のペイントには、これまでにも様々な工夫が重ねられてきましたので、今度はさらに、車内をレトロにしたり、さらにはカラクリを設置したりして、乗車そのものへの関心を高めます。休日には車内イベント開催したりすることで、さらに相乗効果が生まれます。

■利き酒列車

伊賀は、銘酒の産地としても知られます。そこに、鉄道ならではの特権を生かして、車内で利き酒ができる列車を走らせれば、全国から注目を集めること間違いなし。伊賀線と酒どころの魅力を、同時に全国に発信できます。車内では、伊賀焼の専用おちょこを 300 円ぐらいで買って頂いて、地

元の銘酒の利き酒を楽しんで頂くのはどうでしょう。

■車掌体験列車

　子どもたちは、未来の通勤通学客になるかもしれません。鉄道への関心と愛着を早くから持ってもらいたいところです。そこで、実際の列車で、制帽をかぶって車内アナウンスを体験してもらおうというアイデアです。お子さんが体験される場合には、ご家族にも同行頂ければ、皆さんで伊賀線への関心を高めて頂くことができます。

■スタンプラリーの実施

各地でよくみられるものですが、駅ごとに特長を出して、その駅でしか押せないというプレミアムをつけたいところです。また、漫然とスタンプを置いているだけでは関心はすぐ低下してしまいますから、春休みと夏休みの期間限定で全駅を集めれば記念品をプレゼントできれば最高です。ただし、車で各駅をまわってズルをしちゃう方に

まで記念品が渡らないよう、車内にしか設置しないスタンプも必ず一つは準備したいところです。

■電車と言う場を積極的に貸し出す

　例えば映画の撮影や、ドラマ、クイズなどの番組の撮影に、積極的に場所を貸し出すというアイデアは、宣伝と増収の両面で有効です。可能な限り、撮影者のリクエストに応えることで、双方にメリットが生まれます。

■縁起のいい駅名を登用

　北海道の「幸福駅」は全国的なブームを巻き起こし、大変な数の切符が売れました。駅名は地域の代名詞ですから、じっくりと考えなければなりませんが、それだけに命名が実現したときの反響は大きなものが期待できます。具体的な候補としては、広小路駅→芭蕉翁駅（芭蕉翁生家や芭蕉翁記念館の最寄駅）などが挙げられます。

■鉄道部品即売会の定期開催

鉄道の実物の用品や部品というと、一部の熱狂的な方の特権のように思われてしまうかもしれませんが、安全、正確な鉄道を支える部品には、実物ならではの重みがあり、持つ人にさまざまなことを語りかけてくれます。そうした部品類はなかなか手に入りませんが、伊賀線沿線で定期的に即売会を開催すれば、他地域からもお客さんが集まってくれる可能性があります。

●こうしたアイデアを集積して、実現し、その効果を検証して、さらに魅力的な伊賀線に育てていきたいですね。そのためにも、市外・県外も含めた諸団体の連携と、ネットワークづくりが大切だと考えています。

●皆様も、ユニークなアイデアがございましたら、事務局までお寄せください。

すぐにできる
取り組みとして・・・

乗車券や定期券、チケットなどは、伊賀神戸駅・茅町駅・上野市駅で買うことで、伊賀線の売り上げにつながります！！
お友達やご家族にもどんどんお声かけいただいて、ご協力ください（＾＾）

〈発行〉
伊賀線協働塾（2005.8.8 発行）

事務局（連絡先）
〒518-0867
伊賀市上野福居町３３１７番地
（W.T.A まちづくりセンター内）
ふるさと鉄道保存協会ワフ 30037
伊賀ワーキンググループ
TEL.0595-24-7612　FAX. 0595-22-0072
http://www.geocities.jp/william_tells_apple/wafu.html

現存する最古といわれる

タンク車の横を走る伊賀線（依那古）